



経済と経済学の語源について

神戸大学 経済経営研究所
教授 井澤秀記

誰が economy (economics) を経済 (経済学) と最初に和訳したのか興味を持ったことがあります。その始まりは、2002 年ころに NHK の土曜日朝の「くらしと経済」という番組の冒頭で、旧字体 経済 は手書きの縦書きで、その横に題字 福澤諭吉 と小さく書かれていたのを見た時でした。出典を尋ねてみたところ、慶應義塾大学の図書館に保存されている福澤諭吉著『民間経済録』の草稿からであると教えてもらいました。図書館に問い合わせたところ、原本は見ることはできないが、マイクロ・フィッシュになっているものなら見せてもらえるということでした。福澤はオランダ語よりも英語のほうが世界では実用的であることを知り、英和辞典を編纂しています。また、『西洋事情』(外編) の中では「ポリティカル、エコノミー」経済と譯す…… 国民、家を保つるの法と云える義」とあります。

経済という言葉は、「経世済民」を略したものであることはご存じのことでしょう。経世済民とは「世を経(おさ)め、民の苦しみを済(すく)うこと」です。私は経済学部生の時に初めて知りました。その起源は諸説あるようですが、中国の古典、隋の時代の王通『文中子』礼楽篇に、「皆有経済之道、謂経世済民」とあって、経済が経世済民の略語として用いられていたということです。日本では江戸時代中期に太宰春台著『経済録』に「天下國家を治むるを経済と云、世を経め民を済ふ義なり」とあるそうです。

英語の economy の語源は、ギリシャ語のオイコノミアで、家の管理すなわち家政を意味するものでした。これが、近代になって国家レベルでの political economy という言葉が現れました。哲学者井上哲次郎は、これを理財学と訳しました。経済学の旧称です。A.スミスを始めとする古典派経済学では、道徳哲学など広い範囲をカバーしていました。ちなみに、福澤諭吉は当時、芝にあった慶應義塾で F.ウェーランドの著書、*The Elements of Political Economy* (1837) を用いて講義をしています。慶應義塾大学の経済学部の前身は、明治時代には理財学科でした。その後、新古典派経済学者でケインズの師である A.マーシャルの主著、*Principles of Economics* (1890) によって economics という言葉が普及するようになったということです。私事ですが 1980 年代に米国の大学で勉強していたのは、当時珍しい Department of Political Economy でしたが、その後、Department of Economics に改称しました。

以上がこれまでに調べたことを私なりに取りまとめたものです。何気なく使っている「経済」やそれを学問対象とする「経済学」もその語源を遡って本来の意味を知ってもらえたら幸いです。

(2011年6月1日記)